

ENERGY Gift Project in hang Island (Thailand) の実践とフィールドワーク

慶應義塾大学 准教授 オオニシタクヤ

活動日程: 2018 年 12 月 6 日～10 日

場所: タイ、ハン島(クラビー県)

共同研究者: Pornthep Chatpinyakoop (KMUTT, Thailand)

活動の目的

エネルギー・デザインという新領域での社会貢献活動、エネルギー支援プロジェクトの実践を通して、大学におけるリーダーシップ育成を目指す。

世界にはまだ多くの人々が、インフラの整っていない貧困地域に住んでいる。世界中で取り組まれている SDGs の目標でもある貧困の根絶は、人類の大きな目標として掲げられている。理想社会を築くには、そのような貧困地域に対して何かアクションを起こせるような人材を育てることも、必要不可欠な取り組みだと認識している。またこのような取り組みは個人単位で成し遂げられるものではなく、国際的な相互関係を構築し、グローバルに協働しながら解決される問題である。このような理想のリーダーシップ教育を目指し、申請者は 2014 年から、タイの現地大学 King Mongkut's University of Technology Thonburi (以下 KMUTT) とともに、ENERGY Gift というプロジェクトを推進してきている。

この活動は、KMUTT のエンジニア、デザインの学生と、慶應義塾大学 SFC (以下 SFC) のオオニシタクヤ研究会所属の学生が共に協働できるアカデミックなプラットフォームとして機能しており、この ENERGY Gift というエネルギー支援プロジェクトの実践を通して、リーダーシップ育成の成果達成を目指す。

活動の成果

成果1: KMUTT のエンジニアの学生、デザインの学生ら、そして SFC の研究会所属の学生らとの共同開発による、ENERGY Gift mini というソーラーLED のプロダクト開発が完了。2 年に及ぶ 2 国間の相互のやり取りを通して、国際間共同開発のアカデミックなプログラムの実践が行えた。両校のデジタルファブリケーション設備を利用し、遠隔でもクリエイティブな交流が相互に行われ、今後の新しい支援プロジェクトの協働手法が形になった。

成果2: タイの南部、クラビー県にある無電化地域、ハン島において、ENERGY Gift mini の組立てワークショップとその寄贈式を行った。この寄贈イベントの企画、アレンジやコーディネート、コンテンツの準備なども、KMUTT、SFC 両校の協力で行われた。このイベントでは、現地の子供たちにクリーンなエネルギーを学んでもらう絵本の作成とその発表会、そして ENERGY Gift mini の組立てワークショップを、両校大学生が子供たちのリーダーとなって

指導した。これらの体験を通し、両大学の学生たちに大きな達成感が見られ、使命感、責任感の成長が伺えた。

成果3: そのハン島には、幾つかのソーラーパネルが、政府や NGO らによって導入されているが、多くのは機能しておらず、詳しい現地調査を行った。(特に島に唯一の小学校には 28 枚のソーラーパネルが 15 年前に寄贈されているが、ほとんど機能していない。)人口 500 人程度の小さな島で、ゴム農家が主産業である。タイにおけるゴム産業は重要な位置を占めるが、生産量の増加による、単価の低下がゴム農家の生活を苦しめている。そのため中央政府は、貧困で且つハン島のような、インフラ整備のメリットが産業的に望めない地域に対しては消極的である。そこで島の生活はどのようなものなのかを、SFC と KMUTT の学生がチームになって、インタビューを中心としたフィールドワークを行った。合計 6 世帯を回り、島民の生活内容の把握、問題点、未来の可能性などを探った。このフィールドワークを通して、両校の学生たちは、貧困・エネルギー・インフラ・産業・経済、が密接に関係しており、貧困問題の仕組みと、その解決の困難さを学び、今後の展望がディスカッションされた。

今後の展望

本プロジェクトは、グッドデザイン賞を受賞しており、少しづつこの活動の意義が社会に認められつつある。このプロジェクトのゴールは、途上国における大学教育の中でリーダーシップを育成することと同時に、世界からエネルギー的貧困を無くしていくことである。タイ以外の国でも運用できるモデルであるため、今後東南アジアを中心に活動エリアを広げてゆく。

また、今回行ったソーラーLED の組立てワークショップや、その寄贈は最初の一步に過ぎない。世界の貧困エリアには、膨大な規模のソーラーパネルが眠っていると予測されている。NGO や民間企業の CSR など、15~20 年前からブームになっているソーラーパネルの寄贈は、設備導入そのものが重視され、メンテナンスがサポートされていないことがほとんどだ。そのような設備は僅か数年で故障し、放置されるか、盗難、横流しの運命をたどる。本プロジェクトは、今後 ENERGY Gift Recovery という新しいプロジェクトをスタートさせる。今回の現地視察から見えてきた、途上エリアのソーラー施設の問題を改善するべく、活動の幅を広げてゆく。

さらに、将来的にはコンテナ(ソーラー)発電のユニットのデザイン、またその導入方法、メンテナンス方法、技術的指導などを盛り込んだパッケージデザインとその実践を、現地大学と共に目指す。

ENERGY Gift オフィシャルウェブサイト:

<http://energygift.org/>

グッドデザイン賞受賞サイト:

<http://www.g-mark.org/award/describe/48287?token=M8ULFO5CyL&locale=ja>